

平成 31 年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①研究授業や授業見学を更に活性化させ、学校全体としての組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②基礎学力の充実を図ると同時に、各科やクラス内における学力の偏りに対応する授業等の実践を目指す。</p> <p>③カリキュラムや各行事の充実を図りながら、授業時数の確保を目指す。</p>	<p>①55 分授業を活用した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるために、計画的・組織的な研修を行う。</p> <p>②基本的な学習習慣の定着、基礎学力の充実を図り、職員全体で個々の生徒の状況を共有し思考力・判断力・表現力を養成する授業を実践する。</p> <p>③新教育課程の研究を進め、効果的で有効な教育課程の編成を進める。</p>	<p>①「主体的・対話的学び」を目標とした年 2 回の公開授業を実施。生徒による授業評価の結果を分析し、授業改善学習会を実施する。</p> <p>②基礎力診断テストの実施、マナビジョンの活用を通じ、個々の生徒の学力・学習への取組状況を研修会等により職員で共有する。</p> <p>③新教育課程の編成のためカリキュラム検討委員会を設置する。</p>	<p>①授業改善を目途とした授業見学期間（2 回）を設け、他教科を含め 2 回以上他者の授業を参観したか。また、55 分授業の活用や授業改善のための研修会や学習会を実施できたか。</p> <p>②基礎力診断テストの結果を基にした職員研修会を 2 回行ったか。また、全教科で診断テストの結果を活用し生徒の苦手分野を把握したうえで、改善に向けた授業の工夫ができたか。</p> <p>③新教育課程の編成が進展したか。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>①生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>③部活動の活性化を通して、問題解決能力を育み責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりに対応した生活指導を徹底し、社会人としてのルール・マナーを定着させる。</p> <p>②個々の生徒の状況に応じた組織的な相談体制を構築し、円滑な学校生活を送るための支援をする。</p> <p>③新校地での学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> <p>④部活動、同好会、各委員会、農業クラブ、商友会の活動の活性化を推進する。</p>	<p>①挨拶を励行するとともに、服装・頭髪等の身だしなみを徹底して、生徒の規範意識の向上を図る。また、携帯電話や SNS 等の正しいマナーの徹底を図る。</p> <p>②地域と連携し新校地での自転車通学・交通安全指導を徹底する。</p> <p>③生徒の困り感を見逃さないために、組織的かつ迅速な対応を目指すとともに教育相談コーディネーターを活用する。</p> <p>④学校行事において生徒主体の生徒会活動を支援する。</p>	<p>①集会や講演会を充実させ、日常的な挨拶や身だしなみを徹底し、携帯電話の使い方や交通安全等のマナー教育を図ることができたか。</p> <p>②交通事故を防げたか。</p> <p>③個々の生徒の情報共有を図り事故を未然防止するとともに、生徒指導に係る課題を減少させることができたか。</p> <p>④生徒と教員の情報共有を図ることで、生徒主体の学校行事の運営ができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	専門性の高い知識と技術を育み、社会の動向に柔軟に対応できる産業人として、社会人基礎力を主体的に身につけるとともに、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推進する。	①生徒個々の進路に応じた、多様で専門性の高い知識と技術を育成する。 ②収集したデータを活用し、学年に応じたガイダンスを計画的に行う。志望大学の入試や就職する企業に見合ったマナーや基礎学力の定着を目指す。	①インターンシップ・農業体験等地域や産業界と連携した活動を通じて生徒の勤労観・職業観を育成し、多様な進路選択に対応した学習活動の充実を図る。 ②進学希望者に対しては主体的に情報を収集して絞り込むための進路行事を、就職希望者にはマナー指導やガイダンスを実施して、生徒が自主的に進路選択できるように指導する。	①勤労観・職業観を育成し、地域や産業界との連携を図るためのインターンシップ等の参加が前年度の実績を超えたか。 ②生徒の進路状況や生徒対象のアンケートを活用することで、生徒の進路意識を高めることができたかを検証する。
4	地域等との協働	①地域産業界と連携し、個性豊かな人間性や社会性を培うために、農業科・商業科それぞれの高い専門性の知識と技術を活かしつつ「主体性・多様性・協働性」を兼ね備え、社会に貢献することができる生徒の育成を実現していく。 ②社会の動向に柔軟に対応できる産業人の育成に向けた専門教育活動の充実を図る。	①新校舎移転に伴い、地域の企業、団体とのさらなる連携を推進する。 ②農業3学科、総合ビジネス科のそれぞれの技術や知識を活用し、生徒の教育活動との連携を深める。	①4学科全体で10事業以上の企業や団体との連携を実施し、生徒が自ら考え行動する機会を増やす。 ②新設された直売所の運営について、農業科と総合ビジネス科で連携し積極的な運営を目指す。	①生徒の専門性を高め、産業社会に貢献することができるような教育活動の取組が、4学科で10事業以上実施することできたか。 ②直売所の運営について、農業科と総合ビジネス科で連携し、積極的な運営を行うことができたか。
5	学校管理 学校運営	①様々な事故を防ぐため、全職員の組織的な取り組みを進める。 ②災害発生時の体制作りを進める。 ③教育環境の整備を推進する。	①新校舎移転に伴いネットワークを中心とした環境の整備を行う。 ②各種重要データの管理マニュアルなどを完成させる。 ③防災備蓄品の整備や災害発生時のマニュアル等整備を進める。 ④新校舎での教育環境の整備等を行う。	①教職員各個人が利用している校務PCの更新や農業科の管理や体育準備室に配置する共有PCの確保などを行う。 ②前年度に引き続き管理マニュアルの細部の検討を行う。 ③防災備蓄品の整備・更新を計画的に進める。相模原市や地域と災害時の連携に向け情報収集、連携体制の構築を図る。 ④新校舎での課題を整理し改善に向け対応する。	①何台の校務用や共用のPCが更新できたか、機器の不具合による校務への支障が数日にまたがなかったか。 ②成績処理作業などで、事故防止が図られたか。 ③防災備蓄品の整備・更新が進められたか。地域との連携体制の構築、防災マニュアル等の整備ができたか。 ④新校舎での課題に対応し、教育環境の整備が進められたか。